

介護業界の魅力を発信！

未来を担う人材を確保

市内の介護事業者で構成される「浦安市介護事業者協議会」。その会長を務めるグスタフ・ストランデルさんに会長としての活動や課題である人材確保、今後の展望について話を聞いた。

積極的に行政に提案

現在、介護業界全体が課題としてあげるのは人材の確保・育成だ。浦安市においても例外ではなく、「会長として、この問題に集中して取り組んでいます」とストランデルさん。

浦安市介護事業者協議会に参加する市内46事業者の意向をまとめて市に積極的に提案している。

「私たちの提案全てがすぐに受け入れられることは難しいが、浦安市は協力的で、先駆的な取り組みも行っている。例えば、初任者研修・介護福祉士実務者研修の費用や、家賃の一部補助制度などがあり、安心して介護の仕事が続けられる一因となっている。」

「事業者として責任を持って介護サービスを提供していくが、介護は地域の問題として行政と一緒に取り組んでいくべきだ」と思う。1事業者単独ではなく事業者が集まって話し合い、行政に提案することが大切だ。昨年、新型コロナウイルス感染症の影響による人材不足などについて提案をしたところ、クラスターが発生した場合に事業者間で職員を派遣し合うという内容の協定が締結された。この協定の中には市から現場への人材派遣も含まれている。他にもクラスター発生時の職員の宿泊先の提供などがあり、「市の具体的な協力が得られたことはとてもうれしいことです。」

魅力を発信、人を集める

人材を確保するためにできることは。一つは、働きやすい環境を整えることで、行政との連携がこれにつながるという。そして、もう一つ大切なのは、介護業界の良い面をもっと発信して、魅力を知ってもらうこと。

介護の仕事は「きつい」など、ネガティブな面ばかりがクローズアップされがちだが、現場で働く職員は、やりがいや

喜びを感じ、その魅力を実感している。また、全国どこでも働ける上、資格取得などでレベルアップ可能な業界でもある。

世界が目指す浦安の介護

「日本の介護は問題もあるが進んでいる面がたくさんある。特にアジアでは日本はお手本とされています」。中でも浦安の地域介護の取り組みは注目を集めており、これまでにシンガポールや中国などが何度も視察に訪れている。「数十年前と比べれば、日本の介護はここまで進んできた。その変化を世界が手本にしようとしています」

現在、ストランデルさんは関東エリアで医療・介護施設など83カ所を運営する、こひつじグループの「朝日ケアコンサルタント」取締役。また、同グループ事業の1つで、初めて浦安市内で設立された社会福祉法人でもある(福)一静会「複合型高齢者介護施設しずか荘」の運営にも4月から大きくかかわっている。

「しずか荘もそうですが、日本の複合型高齢者施設(特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホームなど複数の介護サービスを提供する施設)は海外では珍しい。高齢者の幅広いニーズに応えるこのシステムは日本が誇れるものです」。介護業界の今後



については、人材が集まればさらに良くなる」とし、そのためにも「もっとポジティブな情報を発信していきたい。明るい話ほかに響きます」と意気込む。最後に「一静会をはじめ、介護業界では人材を広く募集しています。興味のある方はぜひアクセスしてみてください」と呼びかけた。